

季刊
10月・11月・12月

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

118

秋の企画展
相馬中村藩の人びと
福島県立博物館



秋の企画展

相馬中村藩の人びと

会期 10月10日(土)～11月29日(日)

福島県の相双地域では、江戸時代に相馬家を藩主とする中村藩の時代が約250年間続きました。相馬家は、鎌倉時代以来、諸家が盛衰を繰り返した乱世を生き抜き、この地を離れず幕末まで存続した由緒ある家柄です。その領内に暮らした人びとの特色ある生業や暮らしは、現代まで残されたさまざまな資料からうかがい知ることができます。また神社や寺院には、人びとの祈りが込められた貴重な宝物が守り伝えられてきました。

平成23年3月に発生した東日本大震災は、この地域に大きな被害をもたらしました。現在はまだ復旧・復興の途上ですが、そのような時であるからこそ、先人たちの歩みを振り返ってみることも大切なのではないでしょうか。本展では、この地域の少し昔のようすを、はじめて関心をもった方々にも、わかりやすく伝えられるように工夫して紹介してゆきます。

○展示テーマ内容

プロローグ 相馬家と中村藩

藩主の相馬家は、どのような家柄？ 江戸時代以前の相双地域は、どんなようす？
中村藩の領域はどこまで？ 相馬家と中村藩の基礎知識を解説します。

1. 旅人の見た相馬の風景

天保二(一八三一)年五月、若松城下に住む四人が連れだって、野馬追見物の小旅行に出かけます。その時に書かれた紀行文「めさめ日記」によりながら、活況を呈する当時の野馬追のようすや、海岸部や城下を描いた絵図を展示します。

2. ささまざまな仕事と暮らし

相馬家に仕えた武士(藩士)の中には、戦国時代以来の由緒ある家が多くあり、また御料理方のように藩政の特定の役割を担った家もありました。領内の人びとの暮らしの中では、とくに塩作りや陶器(大堀相馬焼)生産などに関する資料を紹介します。

3. 祈りの姿

当時の人びとが祈りを捧げた仏画や工芸品。今回は、当館に寄託されている相馬妙見歡喜寺(相馬市)、阿弥陀寺(南相馬市鹿島区)、同慶寺(南相馬市小高区)、大聖寺(浪江町)の寺宝の中から展示公開させていただきます。



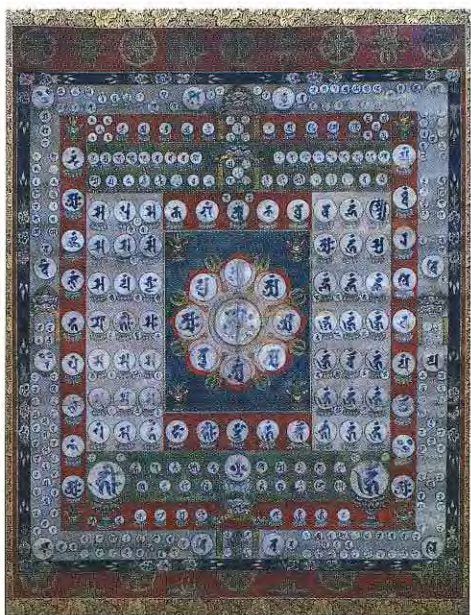
発掘された大堀相馬焼
(福島県文化財センター白河館蔵)



折形(双葉町教育委員会蔵・当館寄託)



御料理方の久田家に伝わった伝書(部分)(双葉町教育委員会蔵・当館寄託)



両界種子曼荼羅(胎藏界) (大聖寺蔵・当館寄託)



藩主相馬家婚礼道具(同慶寺蔵・当館寄託)

○ 関連行事

(1) 企画展記念講演会

「相馬中村藩の成立と家格形成」

講師 東北福祉大学教授 岡田 清一氏
 日時 平成27年10月17日(土) 午後1時30分～3時 場所 講堂
 ※入場無料 申込み不要

(2) 企画展関連講座

「御料理方に学ぶ! 江戸時代の料理作法 — 折形を折ってみよう」

講師 食文化研究家 平出 美穂子氏
 日時 平成27年10月31日(土) 午後1時30分～3時 場所 実習室
 ※事前申込み必要(9月30日より受付開始) 定員30名

(3) 企画展展示解説会

講師 当館学芸員 高橋 充
 日時 10月10日(土)、11月7日(土)・14日(土)・21日(土)・28日(土)
 各回とも午後1時30分～2時30分
 場所 企画展示室(企画展チケットが必要です)

●ご利用案内

開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
 休館日 10月13日(火)、10月19日(月)、10月26日(月)、11月4日(水)、11月9日(月)
 11月16日(月)、11月24日(火)
 企画展・観覧料 一般・大学生500円(400円) 高校生300円(240円)
 小・中学生200円(160円) ※ () は20名以上の団体料金

*ふくしま教育週間(11月1日～7日)は、小中学生・高校生の観覧料が無料です。

●お問い合わせ先

〒965-0807 会津若松市城東町1番25(若松城公園内) 福島県立博物館
 TEL 0242-28-6000 FAX 0242-28-5986
 ホームページ <http://www.general-museum.fks.ed.jp/>
 メールアドレス netmaster@general-museum.fks.ed.jp

ふくしま応援ミュージアムイベント

「アナと雪の女王」

7月20日(月・海の日) 県立博物館講堂で、ふくしま応援ミュージアムイベント「夏休み子ども映画会」が開催されました。上映作品は、昨年大ヒットしたディズニー映画「アナと雪の女王」です。たいへん蒸し暑い日となりましたが、会場には、博物館お馴染みの方々や小学生の子ども達など50人程が来場してくださいました。もう少し積極的にPRすれば、もっと多くの方々にご覧いただけたと思います。アンケートにも、「もっと多くの方々に見てほしかった。」という意見が多く寄せられました。広報の手段について今後さらに検討しなければいけないと反省しております。



映画会のリーフレット

会津若松市内には映画館がありません。今後もこのようなイベントを開催し、より多くの方々に楽しんでいただければと思います。

生活、木炭バスの時代、どの話にも子供たちは熱心に耳を傾け、懐中電灯で展示物を照らししっかりと見てくれました。最後のフタバスズキリュウでは猪瀬学芸員の解説に「へ〜〜そうなんだ・・・」とうなずき歓声を上げる子供たち！

私たち博物館学芸員は、子供たちのここでの体験や感動が、物を見る力、自分で確かめる力、興味関心を追求していく力になってくれればと考えています。まだまだやりませうナイトミュージアム！来年また会いましょう！

「夏休み ナイトミュージアム」

日時 8月22日(土) 17時30分〜19時 会場 常設展示室



ナイトミュージアムの様子

毎年恒例、子供たちに大人気のナイトミュージアム。真っ暗な総合展示室では各ブースで子供たちを学芸員たちが待ちうけます。縄文人の暮らし、仏像の話、木地小屋の

「会津磐梯山・市民盆踊り」

日時 8月15日(土) 19時〜20時30分 会場 福島県立博物館前庭 共催 会津磐梯山盆踊り保存会



8月15日、博物館入り口前の広場では、ミュージアムイベント「会津磐梯山・市民盆踊り」が行われました。このイベントは会津磐梯山盆踊り保存会と県立博物館の共催で平成25年度から行われており、今年で3年目を迎えました。中央に組み立てられた櫓では、保存会の方々による歌と太鼓の演奏が披露され、それに合わせて参加者の皆さんが輪になって踊ります。年々参加者も増えており、少しずつ市民の皆さんにも知っていただけるイベントになってきました。お子さまには綿あめのプレゼントもあり、今年は特に家族連れの方々も多く見られました。保存会のご協力のもと、今後も8月15日には恒例のイベントとして開催していきたいと思っております。ますます多くの方々のご参加をお待ちしています。

今回のQ&Aは現在福島県立博物館が中核館となり活動している「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」をご紹介します。

Q ふくしま震災遺産保全プロジェクトとは？

「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」は震災が産み出したものを、次世代に伝え遺すべき歴史資料「震災遺産」として位置づけ、その保全を図ることを目的に、昨年度からフィールド調査や資料を収集する取り組みを県内の文化施設・団体と協同して実施しています。

Q & A 回答者
金澤 文利
ふくしま震災遺産保全プロジェクト担当

Q 震災遺産はなぜ必要なのですか？

私自身被災地に赴くまでは、その惨事を映像や画像を見ることで理解していたつもりでしたが、現場を実際に見て、つくづく自分には想像力が足りないと感じました。

私が震災後、被災地で目にしたものは地震・津波の破壊力と原発事故によるコミュニティの分断。瓦礫の山、崩れた地層、復興に立ち向かうボランティア。地域再生を図ろうと懸命に働く地域住民。混沌と混乱の中で突如現れた高放射線量区域などです。自然が起こした地震や津波の痕跡は直接現場で見ることができましたが、これらも被災地の復旧に伴い見ることができなくなりました。復興が終わった時、この震災がどのような形で語り継がれていくかはよく考えなければなりません。人の話や映像を見て感じた感覚だけではなかなか伝わりにくいとおもいます。「震災遺産」はなぜ必要なのか。それは残された資料が、そのとき現場で起きていたことを伝えるための証（あかし）となるからなのです。

Q 「震災遺産」として収集している資料はどのようなものですか？

収集した震災遺産資料にフジツボが付着したアスファルト路面の資料があります。2012年4月、私が南相馬市の小高区浦尻・井田川地区に入った時、井田川の田圃地帯は干拓以前の浦の地形に戻ったままでした。小高区は1年近く警戒区域となっていたため、排水機場の施設も手付かずで、井田川は水浸しのままでしたのです。その後水が引いたという話を聞き、井田川に向かうと、不思議な光景を目にしました。コンクリート、アスファルト、ガードレール、津波の被害を受けた車両や流出したものに、フジツボが密集しながら付着していました。浦となった水面の部分まで、無数のフジツボの亡骸が目の前に広がります。海に向かって伸びる道路は真っ白で、その道を歩くと、ジャキジャキとフジツボが壊れる音と感触が伝わります。資料はほんのひとかけらですが、この場所の出来事を示す資料です。

また浪江町の資料の中に「配達されなかった新聞」があります。駅前の新聞店に置かれていた2011年3月12日の朝刊と13日の朝刊です。12日の朝刊は朝、配達員さん達が各地区へ配達したのですが、津波被害のため配達できなかった地区の新聞が積まれていました。そして13日の朝刊なのですが、避難命令が12日に発令されたため、12日の新聞とともに13日の朝刊もそこに置かれたままでした。このように現場に残されたアスファルトのフジツボや、2日分の朝刊は福島で起きた震災と原発事故の複合災害を示す大切な資料です。

その他収集した資料は①地震・津波・原発事故で被害を受けた状況を示すもの。②避難にかかわる状況から生みだされたり取り残されたりしたもの。③避難時からその後の復興の経緯を示すもの。④震災によって表れた自



井田川の水路に架かる橋 海面を境にフジツボが密集している



新聞店に残された3月12日、13日の朝刊

Q 今後の課題は何ですか？

津波被災地の復旧工事が進んでいるため、その地域の資料が失われつつあることや、資料が膨大なため、保全する資料は「何をどう残すのか、なぜ残すのか」保管場所のことも含めて十分な検討が必要となります。ともあれ現時点では震災遺産の保全を通して震災の記憶の風化に歯止めをかけ、資料の展示などを通して継続して、福島に起きた現実を伝えつなげることだと思います。

皆様から「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」についてご意見をいただき、新たな情報などございましたらご連絡いただきたいと思います。ご協力よろしくお願いたします。

■ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会事務局
福島県立博物館
〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25
電話：0242(28)6000 FAX：0242(28)5986

■ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会構成団体
福島県立博物館 相馬中村層群研究会
南相馬市博物館 双葉町歴史民俗資料館
富岡町歴史民俗資料館 いわき市石炭化石館
(公財)ふくしま海洋科学館 いわき自然史研究会

■平成27年度文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

自然分野 香内修

博物館に來られる方々や電話などで様々な質問をいただきます。内容によりそれぞれの担当に回されて、対応しています。自然のサンブルや標本に関しては自然分野に属する我々が担当しています。自然分野には「この石は何という岩石?」「これは化石?」といった質問が持ち込まれることがあります。このように地質を専門にしている我々にとつて出来る範囲でお答えできるようにしています。もちろん物によつては専門家でないといこれ以上はわかりませんと回答せざるをえないものもあります。

さて今回はそれらの質問のうち専門外の生物に関する3つの質問を紹介します。

- ①「会津若松市内でマクラギムカデを見つけたが、生息の北限を越えているのではないか?」
- ②「会津で蛾を捕まえたが、何という名の蛾か?」
- ③「鳥の剥製を寄贈したいが、受け取つてもらえるか?」

①のマクラギムカデについてです。早速パソコンで検索します。鉄道のマクラギそっくりなほど感心しながら、この手の質問は外部団体の「虫の会」さんに問い合わせです。しかし回答は「虫ではない」のでわかりませんでした。そういうムカデは昆虫ではなく、多足類だと納得しながら聞きました。ついでにそのことに

回答できるムカデに詳しい専門家は福島県にはいないのではないかとお話しいただきました。昆虫が専門なのでムカデについて即答はできないということ、この旨を質問した方に連絡をさせていただきます。

②の蛾です。生きている大型の白い蛾で、鳥かごに入れられた状態で持ちこまれました。アゲハチョウのサイズで全体に薄青色を帯びた真っ白いハネ、しかし触角は蝶と異なり、鳥羽状の蛾特有のものでした。時間があれば先の「虫の会」に連絡できるのですが、すぐに名前が知りたいということでした。なにぶんにも生き物です。種類も解らず、飼育の仕方も不明でも生きた状態での引き取りはできません。後で検索してみるとどうやら「オオミスアオ」らしいのです。しかし厳密にはオオミスアオとオナガミスアオの区別はたいへん難しいようです。

最後の③です。大型の鳥類の剥製とのこと、最近では捕獲が禁止されているような種類のようですが、我々にはその種類や、雌雄、年齢など正確なことはいえません。ただし貴重な標本であるらしいので、鳥類保護センターさんなどと連絡を取りながら、貴重な資料として残していきたいのと連絡させていただきました。

福島県立博物館の自然というのは、実は地質分野だけなのです。これは歴史のベースを作っている自然ということ、歴史系博物館の一部に設けられました。しかし人間は生きるために、動物や植物を日常的な食料としているばかりでなく、衣服や建築など様々な材料としても利用してきまし

た。鉄を作るための鉄鉱石や石炭も元をただせば生物起源の物も多いのです。そういう意味で生物と人間生活はもちろん歴史とは切っても切れない深い関係があるのです。近年は自然を革新する人間の力が大きくなりました。あるいは歴史は人間の歴史と狭く考えてきたのかもしれない。だから自然から独立した形の単独で歴史を考えてきたのでしょうか。しかし東日本大震災や原発事故、長期的・グローバルな意味での地球温暖化といったことは、人間社会の狭い枠の中だけで考えることはできないはず。そのためにも身近な動植物などを含めた、福島県の幅広い自然を基礎から十分検討するために幅広い分野を含んだ自然史博物館が必要となってくるのではないのでしょうか。



福島県自然史博物館設立推進協議会より

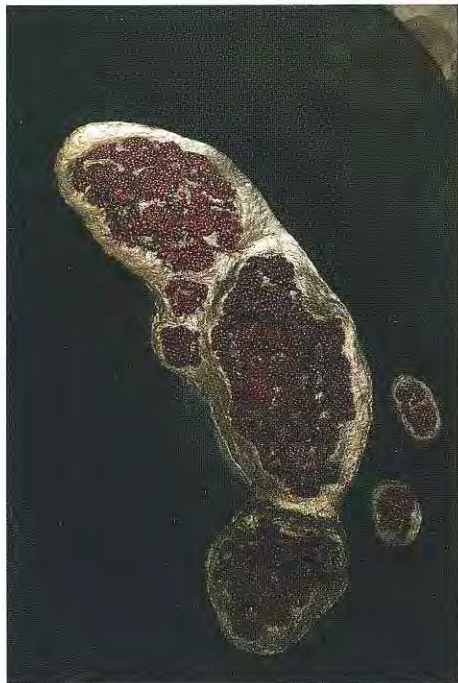
現代「漆・歴史」考 2015

— 吾子可苗 × 富樫孝男 漆の記憶展 —

会期：2015年9月5日（土）～11月1日（日）

トピックス

テーマ展



■展示作品：

吾子可苗 × 富樫孝男 「born-石榴-」、他

現代「漆・歴史」考は、2010年から2012年まで3回開催された「会津・漆の芸術祭」に参加し、漆の技の歴史や会津の地域性などを内包する作品を制作した作家をピックアップし、福島県立博物館の部門展示室を会場にご紹介するものです。「会津・漆の芸術祭 2010～2012」が目指した会津と漆の可能性への問いかけを引き継ぎつつ、新作も加えて新たに展示を構成します。

2015年は、2012年に会津伝統の玉虫塗を用いたコラボレーション作品で参加した作家の吾子可苗（あこ かなえ）と塗師の富樫孝男が登場します。会津の輸出漆器の塗りとして多用された玉虫塗に新たな表現の可能性を広げた二人の挑戦。

アーティストと会津の漆の作り手との協働で生まれた作品から、漆の表現の可能性と伝統の技の奥深さをご覧ください。

会場：福島県立博物館 常設展部門展示室「歴史・美術」

観覧料：常設展料金でご覧になれます。

*大人・大学生 270円（210円）、高校生・小中学生無料（ ）内は20名以上の団体

震災遺産を考える

冬の特集展 予告

東北地方太平洋沖地震は福島県内に地震・津波さらに原発事故を引き起こしました。震災後、福島県立博物館が中心となり展開している「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」。この活動の中から生まれた震災後の福島県の震災遺産資料を展示し、今震災遺産を残すことで何が生まれるのか、次世代に何を伝えるべきなのか皆さんと考える場にしたと考えています。



富岡町 被災バトカー保全の様子

■会期：平成28年2月11日（木・祝）～3月21日（月・祝）
（ふくしま震災遺産保全プロジェクト担当 高橋満）

秋の企画展

「相馬中村藩の人びと」

会期 10月10日(土)～11月29日(日)
会場 企画展示室
企画展観覧料 一般・大学生5,000円(4,000円)
高校生3,000円(2,400円)
中学生2,000円(1,600円)
※()は20名以上の団体料金

●関連事業

企画展記念講演会

「相馬中村藩の成立と家格形成」

講師 東北福祉大学教授 岡田清一氏
日時 10月17日(土) 13時30分～15時
会場 講堂 ※入場無料 申込み不要

企画展関連講座

「御料理方に学ぶ！江戸時代の料理作法
—折形を折ってみよう—」

講師 食文化研究者 平出美穂子氏
日時 10月31日(土) 13時30分～15時
会場 実習室

●企画展展示解説会

講師 学芸員 高橋充

日時 10月10日(土) 11月7日(土)

11月14日(土) 11月21日(土) 11月28日(土)

※各回とも13時30分～14時30分

会場 企画展示室 ※企画展チケットが必要です

テーマ展

*常設展料金でご覧いただけます

「ふるさとの考古資料6 『飯館村』遺跡探訪」

会期 6月20日(土)～平成28年5月8日(日)
会場 部門「考古」

「現代「漆」歴史」考2015」

「吾子可苗×富樫孝男」漆の記憶展」
会期 9月5日(土)～11月1日(日)
会場 部門「歴史美術」

「けんばくの宝2015」

会期 11月14日(土)～平成28年1月24日(日)まで
会場 部門「歴史美術」

ポイント展

*常設展料金でご覧いただけます

「農鍛冶の仕事と道具」

山口栄吾「レクシオン」

会期 10月2日(金)～12月2日(水)まで
会場 部門「民俗」

「藤井康文 恐竜イラスト原画展」

会期 10月3日(土)～11月15日(日)まで
会場 エントランスホール ※無料

「石器に用いられた石」

会期 11月5日(木)～平成28年3月13日(日)まで
会場 総合「原始」

「縄文時代の植物利用」

会期 11月10日(火)～平成28年3月13日(日)まで
会場 総合「原始」

「弥生時代の骨角器」

会期 11月17日(火)～平成28年3月13日(日)まで
会場 総合「原始」

「むかしの道具—洗たくとアイロンかけ—」

会期 12月4日(金)～平成28年3月23日(水)まで
会場 部門「民俗」

「那役所のお仕事」

会期 11月25日(水)～平成28年3月13日(日)まで
会場 総合「古代」

館長講座

*申込み不要 入場無料

「司馬遼太郎の東北紀行⑦⑧⑨」

日時 ⑦10月15日(水) ⑧11月19日(木)

⑨12月17日(木)

⑩⑪いずれも13時30分～14時30分

会場 講堂

講演・講座

○考古学講座

「縄文土器の野焼き」(申込み終了)

日時 10月4日(日) 10時～15時

講師 学芸員 森幸彦

「流麩寺成立の背景」

日時 11月29日(日) 13時30分～15時

講師 学芸員 荒木隆
会場 講堂 ※入場無料 申込み不要

○民俗講座

映像でみるふくしま伝承の技④

「村のかじや〜会津地方の野鍛冶の記録」

日時 11月1日(日) 13時30分～15時

講師 学芸員 大里正樹

会場 講堂 ※入場無料 申込み不要

○自然史講座

「鶴ヶ城の野鳥」

日時 11月15日(日) 13時30分～15時30分

講師 野鳥研究者 古川裕司氏

会場 視聴覚室・鶴ヶ城公園
※要申込み 定員30名 参加費1,000円

○ギャラリートーク

「展示資料からみる古代のふくしま」

日時 ⑦10月11日(日) ⑧11月8日(日)

⑨12月13日(日)

⑩⑪いずれも13時30分～14時

講師 学芸員 荒木隆
会場 総合「古代」
※申込み不要 *常設展料金でご覧いただけます

○実演・実技講座

紙芝居「スーパージョウ」⑦⑧

日時 ⑦10月25日(日) ⑧11月22日(日)

⑨⑩いずれも13時30分～14時

講師 学芸員 荒木隆
会場 体験学習室

ミュージアムイベント

「おはなしのへや2015 in けんばく」

会期 10月24日(土) 13時30分～14時30分

出演 よみかかせグループ おはなしのへや

会場 体験学習室

「クリスマスコンサート」

会期 12月19日(土) 13時30分～15時

会場 エントランスホール

福島県立博物館移動展のご案内

「被災地からの考古学1 in いわき」

会期 10月3日(土)～12月14日(日)

会場 いわき市考古資料館
※入場無料 申込み不要

●「被災地からの考古学1 in いわき」移動展記念講演会

「浜通り地方から福島県の古代を読み解く」

日時 10月10日(土) 13時30分～15時

講師 福島県立博物館 荒木隆

会場 いわき市考古資料館 入場無料

「シリーズ浜通り地方の製鉄を考える」

日時 11月14日(土) 13時30分～15時

講師 日本古代鉄生産研究会 吉田秀亨氏

会場 いわき市考古資料館 入場無料

「復興調査から見えてきたいわき地方の歴史」

日時 12月5日(土) 13時30分～15時

講師 いわき市教育文化事業団 木幡成雄氏

会場 いわき市考古資料館 入場無料

●「被災地からの考古学1 in いわき」関連事業

中央大学学術講演会

「東日本大震災と考古学」

日時 10月24日(土) 13時30分～15時

講師 中央大学文学部教授 小林謙一氏

会場 いわき市生涯学習プラザ 入場無料

常設展観覧料

*一般・大学生は2,700円

(20名以上の団体の場合2,100円)

*高校生以下は無料でご覧いただけます。

*文化の日11月3日(火・祝)はす

べての方の常設展観覧料が無料と

なります。

*小学生・中学生・高校生はふくしま教育週間の11月1日

(日)～11月7日(土)に限り企画展観覧料が無料になり

ます。

*11月2日(月)臨時閉館いたします。

10月・12月の休館日

10月5日(月)・13日(火)・19日(月)・26日(日)

11月4日(水)・9日(月)・16日(月)・24日(火)・30日(月)

12月7日(月)・14日(月)・15日(火)・21日(月)・24日(木)

※12月28日(月)～1月4日(日)は年末年始のため休館いたします。

*要申込みの行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集

を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせ

をください。

*その他、行事等の詳細に関しましては月行事予定やホ

ームページをご覧ください。

